



【教室掲示で大切にしたいこと】②

日々の出来事を記録した掲示板「タイトル」

■ 日々の出来事を記録した掲示板「タイトル」

教室掲示は、情報を伝えるだけの「掲示板」ではなく、ギャラリーであり、装飾であり、ポートフォリオであるなど、本当に多くの可能性を秘めています。それは児童と教師が共有する「巨大なノート」。今回も引き続き「教室掲示」についてお伝えします。

どもたちの話し合いを聞いているのはとても楽しかったです。「はじめの一步」という曲をピアノで合奏する学習をしていたときのことでした。もう少しで完成！というところでその日の授業が終わりました。帰りの会で決まったその日のタイトルは、「はじめの一步はあと一步」。思わず「上手い！」と叫んでしまいました。子どもの力はすごい。



この写真は、日々の出来事を記録した掲示物です。この掲示物を子どもたちは「タイトル」と読んでいました。私は、新学期が始まった1日目から、その1日に名前を付けていきました。「進級おめでとう」「運動会がんばろう！」「秋晴れ」「5のかたまりでかぞえよう」等々。タイトルは、その日の出来事であったり、学んだ内容であったり、スローガンでもありました。タイトルは色画用紙を切った短冊に記し、写真を貼って掲示していました。

教室掲示のアイデアは、様々です。いろいろなスタイルを取り入れ、オリジナルのスタイルを作っていくと良いと思います。私は何よりも「学びの履歴」をお勧めします。新学期、早速スタートしてみてもいいのではないでしょうか。

東京学芸大学
准教授 鈴木 聡

2学期位になると、子どもたちから「自分たちでタイトルを決めたい」という声があがってきます。期待通りの展開です。帰りの会でタイトルを決める場面は、とても面白い時間です。私が予想していたものと大きくずれることがありました。「そちらの方が印象深かったのか！」などと考えながら子

